

SORA *Travel*

web magazine 2016.jan. vol.66



indonesia Komodo

MAP
CLICK!

ダイブクルーズ船・ パヌニーヨットで行くコモドの海

Photo & Text : Yasuaki Kagii

南はインド洋、北は太平洋の影響を色濃く受けるフローレス海、西にスンバワ島、東にフローレス島に挟まれたコモド諸島は魚影の濃さやカラフルさでは、多くのダイバーを魅了する。今回は、世界中の面白い海を見つけては、クルーズを催行するダイブクルーズ船・パヌニーヨットに乗ってコモドの海を堪能してきた。



tsumi-shima tsumishima.com
ダイバーの夢をつみあげていく島



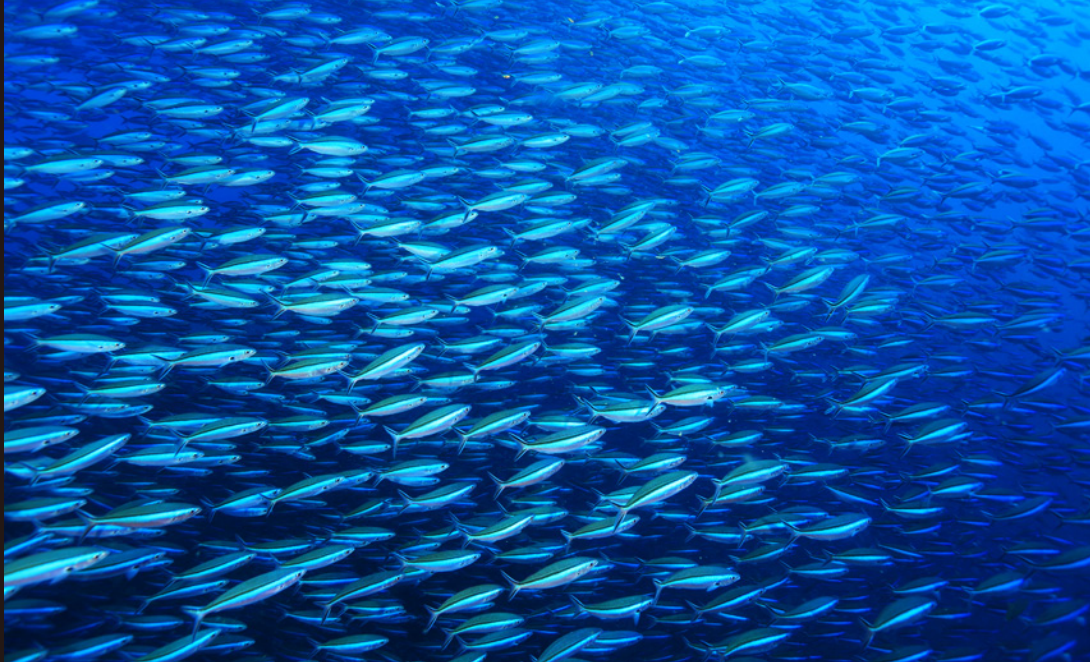
(株)ワールドツアープランナーズ
www.wtp.co.jp

© 2016
World Tour Planners Co., Ltd.
All Rights Reserved.

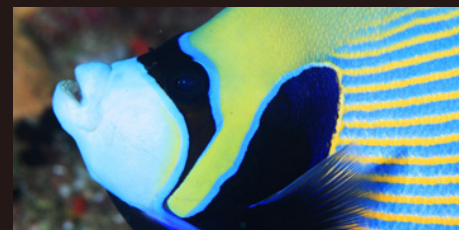


行き先は、 キャッスルロック& クリスタルロック！

コモド北部のポイントは、全てのダイバーが海を、ダイビングを好きになれるポイントが揃っている。大物ポイントとして、代表的なキャッスルロックは小振りな沈み根を潜っていく。潮当たりの良い場所は魚影も濃く、中層には、ムレハタタダイ、ウメイロモドキ、クマザサハナムロなどが群れ、ロウニンアジやイソマグロなどがハンティングにやってくる。とても賑やかな感じ。緩やかな傾斜にある小さな根も小さな魚が群れ、イナズマヤッコ、タテジマキンチャクダイなどのヤッコ類を始め、イエローリボンスイートリップスの群れなども見られる。とてもカラフルな水中景観が特徴。一緒に潜った女性ダイバーは、「全ての種類のお魚が見られた。ロウニンアジ、カスミアジ、ピンクスクワットロブスター、ウミウシなど大小様々な生き物が見られた。まったく飽きることがなかった」と大満足のポイントだった。同じく人気のクリスタルロックにエントリー。水面下からクマザサハナムロが竜巻のように海底から水面まで群れている。そこにロウニンアジとカスミアジ、ギンガメアジが泳ぎ迫る。集まってきたダイバーの泡と共に、クマザサハナムロの群れを左右に翻弄する。そして、潮の流れに身を任せてリーフを進んでいくと、スズメダイの群れやタイマイとご対面。至る場所に、キンギョハナダイが群れ、オレンジ色のソフトコーラルの群れに彩りを添える。離れ根では、イエロースイートリップスの群れが仲良く並んでいた。豊かなこの海がどこまでも続いている。



Indonesia
Komodo
Travel インドネシア・コモド



みんなダイビングを好きになるコモド北部の海

そして、ショットガンに潜る。狙いはマンタ。潮の流れに乗って一直線にダイビングしていく。砂地を渡り、サンゴ礁の上を漂う。大きな根の亀裂には、マダラタルミなどの中型魚が群れていて、シルエットに迫力がある。中層にはロウニンアジが数匹の群れで泳ぐ。かなり接近できるので、少し怖い。そして、ナイトダイビングではピンクビーチに潜っ

た。取材時期は7月だったが、この時点で水温が23℃に下がっていた。少し南下するだけで、かなり水温の違いがある。コモドに訪れるダイバーはしっかりと防寒装備が必要となる。ピンクビーチでは、可愛いウミウシやテヅルモヅルに絡むお魚を見つけた。色の溢れる素敵なポイントだった。

Indonesia
Komodo
Travel インドネシア・コモド



コモドのマントバレイ

マントバレイでは、水面に突き出た細長い大きな岩の裏表で潜る。日中に太陽が良く当たる面は水深も浅く、水面下に泳ぐマンタに出会うこともできる。日中、どちらかと言うと陰になる面は、水深20mにクリーニングステーションがあり、そこに集まってくるマンタとの遭遇となる。そのときによって集まる数は違うが、多いときには20枚ほど集まる。色は通常のマンタとお腹の黒いブラックマンタ。オセロのようにモノクロの生き物が私たちの前で、前後左

右、縦横無尽に海中を泳いでいく。そして、今回驚いたのが、水深20mのクリーニングステーションの近くに、キンギョハナダイの群れがいくつも見受けられたが、その中に数多くのルソンハナダイを発見したこと。これまでに何度かこのポイントに潜っていたが、ルソンハナダイに気がついたのが初めて。きっと昨年まではいなかったはず、と思いがけない変化に嬉しくなった。(マンタ用の超ワイドレンズで、無理矢理に撮影を試みた。)

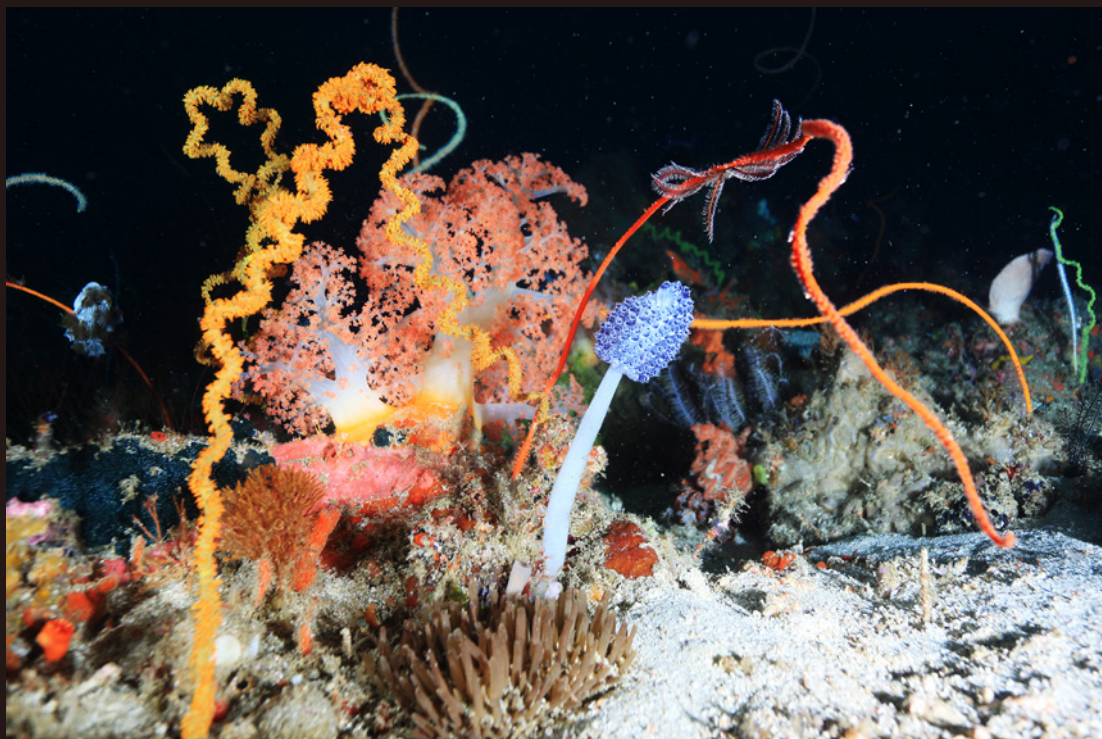
Indonesia
Komodo
Travel インドネシア・コモド





アデヤカキンコって知ってますか？

そして、同じく南のヌサコデエリアに。ここは、リンチャ島の南に位置し、有名なカーニバルロックがある。カーニバルロックは、水深約2mからなる根で、傾斜の緩やかな山のように裾野が広がっている。コモドの北部とは違う趣きがあり、この景観がまた面白い。イメージでお伝えすると、海の青ではなく、緑のナンヨウキサンゴとオレンジ色と黄緑、茶色のウミシダ、そして黄色い丸いホヤなど。なんだか海の中に居るとは思えないような色彩が広がっている。その中に、アデヤカキンコと呼ばれるこれまた原色使いの大きなナマコがいる。なかなか言葉での説明は難しいが、経験豊富なダイバーになればなるほど、他の海との違いを感じとれる唯一無二の世界が広がっている。もちろん魚影も濃く、黄色いフエダイの仲間やキンギョハナダイは無尽に根を覆い尽くし、ヤッコやウミウシの仲間なども多い。また、このエリアでのナイトダイビングもとても面白かった。緩やかな傾斜の砂地を潜っていくと、ウミサボテンやウミエラなどが砂地から顔を出し、そこにエビカニ系が共生していたり、ウミウシの仲間も多様多種に見つかった。南まで南下するとシーズンにもよるが、水温がかなり下がる（取材時は7月で23℃）。それでも約50分、水温の低さを忘れさせてくれるほど、次から次へと生き物が現れる楽しい1ダイブだった。



Indonesia
Komodo
Travel インドネシア・コモド



こんな数のキンギョハナダイは
見たことがない!!!

indonesia
Komodo
Travel インドネシア・コモド

tsumi-shima
ダイバーの夢をつみあげていく





オレンジ色が目立ちすぎる海底景色

南のエリアを楽しんだ後は北上し、セントラルコモドへ。まずエントリーしたのは、バトゥボロン。ここはコモドを代表する華やかなポイントで、水上に突き出たアーチ状の岩礁が目印。ダイビングボートでポイントに近づいていくと、そのアーチの周囲が、すごく潮が流れている。このポイントは潮当たりの陰になっている片側だけを潜る。水深25m までまず行き、その後はジグザグに深度を上げていく。ダイビングする範囲はそれほど大きくはないが、カメラやロウニンアジ、ギンポの仲間などが簡単に見つかり、かつリーフは赤や黄色のカイメンに覆われているので、とてもカラフルで写真向きである。潮の流れのあるエッジに到着すると、「これでもか!」と言うくらいキンギョハナダイが群れている。潮流に翻弄される花びらのように、留まることを知らず、常に動き続ける。その様子が華やかで、とても美しい。次は少しゆっくり目にポイントにエントリー。「タタワブサール」という島沿いをダイビングしていく。水深を少し落とすと、オレンジ色のソフトコーラルが群棲している。その周囲にもキンギョハナダイなどが群れ、またタテジマキンチャクダイやイナズマヤッコなどのカラフルな中型魚も多い。中層にはクマザサハナムロも群れ、海中の中が健全で賑やかな様子。最後にマンタも登場して、納得の1ダイブとなった。



マンタとマクロとカラフルな風景

そして、タカト・マカッサルリーフへマンタ狙いで潜る。水深5〜8mほどのがれ場を進んでいくと、海底にたくさんのウミウシを見つけることができる。ここは意外にウミウシなどのマクロの生き物にも適していた。ガイドさんが見せてくれる小さな生き物を観察していると、潮の下手からマンタが現れる。海底ギリギリにのんびりと泳いで来る。全てのダイバーにほんの少しの時間だけど、幸せをお裾分けしながら、マンタが泳ぎ去った。その後、マンタの気配を感じながら、真っ赤なイソバナのクリーニングステーションにやってくるタテジマキンチャクダイなどにとらめっこしながら、これまた個人としては極上の時間を過ごした。





Indonesia
Komodo
Travel インドネシア・コモド

コモドの ナイトダイブは 面白い

クルーズのスケジュールとして、1日に4ダイブすることができるが、最終の4ダイブ目は、ほとんどナイトダイブとなった。ナイトダイブは…、という方も多いと思うが、コモドのナイトダイブは、これまでのナイトのイメージを覆すほど面白い。毎晩ナイトダイブがあるので、コモドの北、中央、南エリアで楽しむことができ、それぞれ特徴もある。北は、どちらかというと通常のナイトダイブに似て、サンゴや砂地に生きる生き物の観察。南のヌサコデでのナイトダイブは極上だった。ウミウシや甲殻類などが面白いように、見つかる。あまりにも次から次へと生き物が現れるので、水温の低さを完璧に忘れた。コモド中央でも、普通の砂地から、昼間ではあまりお見かけしない生き物が登場。ナイトダイブでしか現れない生き物も多いと思うが、とにかく生物層の濃さを実感するコモドナイトになることだろう。

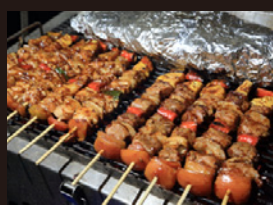
今回、お世話になったダイブクルーズ船・パヌニーヨット

世界中の面白い海を見つけては、果敢にクルーズ展開をするダイブクルーズ船・パヌニーヨット。オーナーであるジャクリン氏が、熱狂的なフォト派ダイバーで、とにかく今、旬の海を見つけては、私たちに新しい出会いを提供してくれる。これまでも、インドのアンダマン・ニコバル諸島やデラワン・サンガラキなどでクルーズを催行し、今もまたチェンデラワシなどでクルーズを行っている。船はダイビング専用の設計で、全長32 m。3層に別れ、メインデッキにダイニングルーム、ダイブデッキ、デラックスルーム、スイートルーム。ローデッキに、デラックスルーム、シングルルーム。アッ

Indonesia
Komodo
Travel インドネシア・コモド

パーデッキにサンデッキ、多目的室がある。定員は20名で、日本をはじめ、タイ、韓国、シンガポールなど各国のダイバーが集う。食事はタイ料理がメインで、日本人の好みに合う。中には少し辛い料理もあるが、クルーズ中にお鍋やサンデッキでのBBQもあるので、バラエティに富む。

ダイビングのスケジュールは、1日4ダイブ。1グループは6名までの4チームで、潜水時間は60分。コモドに点在するポイントまでパヌニーヨットで移動して、そこからダイビング用のディンギーに乗り込んでダイビングに行く。各ポイントまでは約5分くらい。ナイトロックスも完備。





Indonesia
Komodo
Travel インドネシア・コモド

tsumi-shima   
ダイバーの夢をつみあげていく船

丘の上の風が気持ち良い陸上観察

コモドに来たなら、やはり会いたいのがコモドドラゴン。滞在中は、必ずコモドドラゴンに会いに行く陸上観察が付いている。上陸したのはリンチャ島で、そこにはレンジャーステーションがあり、ガイド付きで観察ツアーを行っている。コモドドラゴンとは意外とあっさり会える。というのも、レンジャーステーションのキッチンに下で、匂いに嗅ぎ付けたコモドドラゴンが必ず居るからだ。通常ならば、そのキッチンの下に数匹のコモドドラゴンを見ることができるが、今回の取材時（7月）は、ちょうどコモドドラゴンの交尾シーズンで、トレッキングコースの脇で、産卵のために穴を掘るメスのコモドドラゴンにも出会えた。トレッキングコースの後半は小高い丘に上り、コモド諸島を俯瞰で眺める。心地よい風が、頬に気持ちよい。実は、ヌサコデエリアでも海岸線に現れるコモドドラゴンに会える。ダイビングの後に、ビーチに接近するとゆっくりと私たちに歩いてくるコモドドラゴンの姿が。歩き方が意外に可愛いので、恐竜のような姿とのギャップに好感が持てた。

